

いなづま

題字 小寺 寛一

発行所 函館地方電気工事協同組合

編集総務部

住所 函館市日乃出町7番22号

印刷所 有限会社 畠山印刷



函館山ロープウェイ (126人乗りゴンドラ)

昭和六十二年九月一日付でいわゆる電気工事二法が改正公布され、昭和六十三年九月一日から施工されたことはすでに周知のとおりで、この法改正に伴なう経過措置としての「第一種電気工事士資格講習会」が本年一月から全道四地区で開催されて居ります。

函館における第一回目の講習会は、一月二十八日、二十九日の二日間にわたってホテルアカシヤで開催されました。この時の当組合関係の受講者一四三名に対し、四月十四日第一種電気工事士免状が交付されました。

おつて、四月八日・九日開催された講習会に受講された人達にも七月頃免状が交付されることと思います。すでに組合から通知済みで大半の事業所では変更手続を完了して居りますが、主任電気工事士が第一種電気工事士免状の交付を受けた場合は、電気工事業法の第十条又は第三十四条の規定により変更手続が必要となりますので、必ず所定の手続きをされるようお願い致します。

◎ 店舗用標識を取り替えて下さい。

電気工事業法の改正により店舗用の標識は登録業者、届出業者のいづれも新標識に取り替えなければならぬことになつて居りますので、旧標識を掲示している事業所は早急に新標識に取り替えるようお願い致します。

不明の点は組合事務局にお問い合わせ下さい。

第一種
電気工事士
誕生

役員会だより

第九回役員会

一・二・二

一、慶弔報告

- (一)、(有)旭東電気工業所代表者病気入院見舞
- (二)、(有)ヤマト電気工業所代表者病気入院見舞
- (三)、山本電気商会代表者病気入院見舞

二、貸付報告

六社 二八〇万円

三、道工業組合総代会の報告

付

について

- (四)、第一種電気工事士免状交付申請書等の用紙の交付について
- (五)、管内北工連絡会提出議題について
- (六)、共同保守管理業務の契約について
- (七)、大同生命団体共済制度保険料について

四、各支部報告並提案事項

四、総務委員会事項

五、永年勤続者表彰式・新年会について

六、代表者の変更

七、事業委員会事項

八、組合員の異動

九、講習会の実施について

十、建設省共通仕様書・標準図説明会について

十一、渡島支庁による電気工事業法立人検査の結果について

三、各支部報告並提案事項

四、各支部それぞれ会議、新年会を開催した。

四、総務委員会事項

(一)、北海道電気工業組合総代会の日程について

(二)、消費税について

(三)、永年勤続者表彰式・新年会について

(四)、組合新加入申込について審査

(五)、独占禁止法の遵守について

(六)、組合脱退申込みについて

(七)、釣谷電気工業所(八雲支部廃業)――承認

(八)、技術・教育委員会事項

(九)、第一回第一種電気工事士資格講習会について

(十)、平成元年度技術検定試験等実施日程表について

(十一)、内線工事無断施工の防止について

(十二)、平成元年度第一級電気工事施工管理技術検定試験について

(十三)、主任電気工事士研修会について

(十四)、第三者損害賠償制度等実績資料について

(十五)、保守管理業務の推進について

(十六)、事業委員会事項

(十七)、第三回役員会について

(十八)、保守管理業務の推進について

(十九)、保守管理業務の推進について

(二十)、保守管理業務の推進について

(二十一)、保守管理業務の推進について

(二十二)、保守管理業務の推進について

(二十三)、保守管理業務の推進について

(二十四)、保守管理業務の推進について

(二十五)、保守管理業務の推進について

(二十六)、保守管理業務の推進について

(二十七)、保守管理業務の推進について

(二十八)、保守管理業務の推進について

(二十九)、保守管理業務の推進について

(三十)、保守管理業務の推進について

(三十一)、保守管理業務の推進について

(三十二)、保守管理業務の推進について

(三十三)、保守管理業務の推進について

(三十四)、保守管理業務の推進について

一・三・一五

承認

組合員の異動

(新)

一、(株)田原電気(東支部)

田原電気

二、(有)光進電気工業(北支部)

光進電気工業

三、(株)シマデン産業(赤川支部)

(有)シマデン産業

四、(株)奥尻電機(有)奥尻電機

○(株)奥尻電機

五、(株)奥尻電機(江差支部)

(有)奥尻電機

六、(株)本間組(赤川支部)

(有)本間組

七、(株)沢田電工舎(赤川支部)

○(株)沢田電工舎

八、(株)西興電設(中渡島支部)

○(株)西興電設

九、(株)亀田郡七飯町字東大沼

○(株)亀田郡七飯町

一、(有)立花電気商会

○(株)立花電気商会

二、(株)第一電気工業(北支部)

○(株)第一電気工業

三、(株)高杉正樹

○(株)高杉正樹

四、(株)高杉安司

○(株)高杉安司

組合行事

1月6日	御用始め
10日	東支部役員会 いなづま編集会議
13日	八雲支部八雲ブロック新年会
15日	八雲支部森ブロック安全衛生協議会総会
17日	江差支部会議兼新年会
19日	中渡島支部会議兼新年会
21日	全日福島支部会議
23日	全日総務委員会
24日	道工業組合役員会に大倉理事長、吉田副理事長出席（於札電協）
25日	北支部会議兼新年会
26日	中小企業団体中央会勉強会に坂本事務局長出席
2928日	第一種電気工事士資格講習会 (於ホテルアカシヤ) ॥受講者一九九名
31日	正副理事長会議
2月2日	永年勤続者表彰式・新年会 (於ホテル函館ロイヤル)
6日	全日電工連互助会委員会に大倉理事長出席
10日	東支部会議 (於東京都)
13日	北海道電気工事業厚生年金基金代議員会に大倉理事長出席（於厚生年金会館）
16日	青年部研修会兼新年会
17日	共同保守管理業務打合会議
28日	道工業組合総代会に大倉理事長ほか九名出席

3月1日(3日)
渡島支厅による業法立入検査
席（於厚生年金会館）

2日	全日電工連理事会に大倉理事長出席 (於東京都)
3日	中小企業団体中央会勉強会に坂本事務局長出席
7日	赤川支部会議
8日	建設委員会
10日	渡島支厅による業法立入検査
13日	全日電工連調査委員会に大倉理事長出席 (於東京都)
14日	消費税説明会（於組合会議室）
15日	第十回役員会
16日	管内北工連絡会議（於組合会議室）
17日	商工中金函館支店長歓送迎会に大倉理事長出席（於ホテル函館ロイヤル）
20日	中渡島支部会議
21日	道工業組合理事会に大倉理事長、吉田副理事長出席（於札電協）
23日	西支部会議
24日	中小企業団体中央会消費税説明会に坂本事務局長出席（於ハーバービューホテル）
28日	建設省共通仕様書、標準図説明会 (於ホテルアカシヤ) ॥受講者七七名
29日	主任電気工事士研修会 (於ホテルアカシヤ) ॥受講者一五四名
29日	建設委員会
29日	全日電工連理事会に大倉理事長出席 (於石川県)

組合員の消息

1、一月一四日	佐藤電気工事(株)代表取締役佐藤征次殿母堂佐藤キミ殿ご逝去
1、一月一五日	(南)沢田電工舎代表取締役沢田勝治殿ご逝去



永年勤続者表彰式・新年宴会

“ホテル函館ロイヤル”で開催

昭和六十三年度永年勤続者表彰式ならびに平成元年新年会が一月二日ホテル函館ロイヤルで挙行された。

午後三時から第九回役員会が別室で開かれ、表彰式は地元選出衆議院議員、官公庁関係・北電・電材問屋メーカー・保険会社等関係来賓三十三名、被表彰者二十六名（十名が欠席）および組合員・事務局職員を含め総數百九十名が一堂に会し開式した。

まず昭和天皇の崩御に対して黙祷を捧げたあと、あいさつに立った大倉理事長は『高度情報化、技術革新が急速に進む中、現在業界は深刻な技術者不足にある。その中にあって受賞者の皆さんは一つの事業所において中核となつて企業のため業界のため尽力してきた。心から感謝し、敬意を表します』とねぎらいのことばを述べた。

また『昨年は青函トンネル開通』という記念すべき年に組合創立四十周年の記念式典を挙行。青函博景気の好況の中、組合発展の好機を迎えた。しかし、地元中小企業者にとっては依然経営環境は厳しく、昨年成立了業界希望の電気工事二法を契機に、電気工事業界および電気工事士の社会的地位の向上を目指して資格取得を中心とした各種事業を積極的に実施した。と

統いて大倉理事長から永年勤続受賞者一人一人に表彰状と記念品が手渡され、阿部文男、奥野一雄、佐藤孝行（代理）議士ならびに木戸浦隆一函館市長（代理）、佐々木吉孝北電函館営業所長が次々と祝辞を述べ



受賞者の謝辞では、タマツ電機工業株の野呂宏平さ
んが「心を新たに、一層努力したい」と決意を述べた。
このあと、昨年五月に役員の任期を満了した日計文
雄、山崎鉄雄、大久保智徳、故金本慶三の四氏に記念
品が贈られた。

第一種電氣工事士資格講習会実施

第一種電気工事士資格講習会の第一回目が、去る一月二十八、二十九日の両日にわたくつて函館ホテルアカシヤで開催され、当組合と南北海道協組から総勢百九十九人が受講した。

この講習会は、昨年九月施行された改正電気工事規格に伴なう経過措置として通商産業大臣が指定する講習会で、北海道では札幌・旭川・釧路・函館の四市でのみ開催されるもので、受講対象者は全道で約一万人、当組合関係者では約七百六十人と推定されている。

時合十月木のう語日記書の記入又は原書又は重複
とすすめられ始めての講習を迎えた訳であるが、慣れ
ていないという事に加えて、講習機関・講師との打合
せもままならぬ状態で経過して居り、不安にかられな
がらも会場責任者の大倉理事長、会場監督員の吉田副
理事長と会場事務員の酒井理事、平井監事の四名に事
務局より二名の総勢六名は、当日午前八時三十分に会
場に集合、段取りを開始した。

て居り、心配された天候もからりと晴れあがり関係者は先づひと安心。

座席票の取付等会場の準備が完了して午前八時五十分受付開始、鹿之内事務局長にもお願ひして受講票の確認と引換えにテキストの配付、昼食の予約と一時はてんてこ舞いの忙しさに追われた。

講習開始（午後十時）十分前には二名を除いて受付を完了して入室、大倉会場責任者が受講上の注意を与

野田達夫講師（北海道電氣管理技術者協会）による

久保を提出 講習修了証の交付を受けた
二日間にわたる講習を無事修了した。
受講料・免状交付申請手数料あわせて二万六千円の
ほか遠隔地からの受講者は交通費・宿泊費と多額の費
用をかけての資格取得だけに、今後この第一種電気工
事士の資格を有効に活用して、各企業の経営ならびに
各電気工事士の技術の向上に是非役立てて欲しいと願
うものである。

講師の各氏には本誌をかりて、厚くお礼を申し上げ
ます。

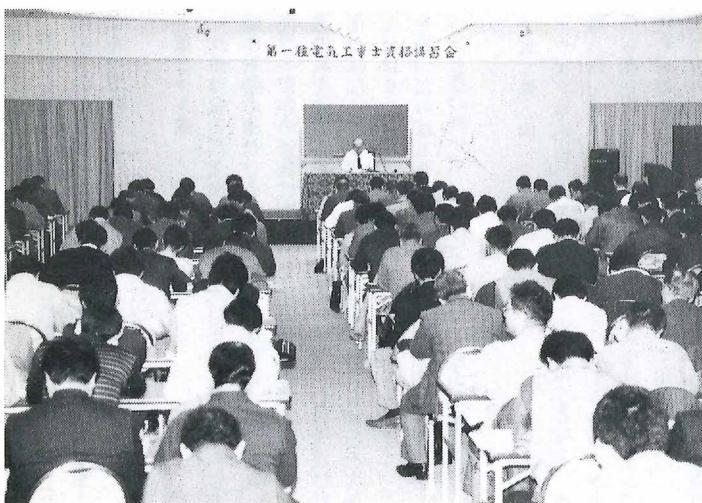
受講料・免状交付申請手数料あわせて二万六千円の費用をかけての資格取得だけに、今後この第一種電気工事士の資格を有効に活用して、各企業の経営ならびに各電気工事士の技術の向上に是非役立てて欲しいと願うものである。

第一日目は受付事務が省略されるので渠であろうと思つてゐたところ、前日剥がした座席表の取付けが意外に手間どり、休む間もなく午後九時講習開始。第三区分の西岡大成講師（当組合理事）による電気機器及び受電設備についてオーバーへッドを使っての講義が四時間、午後二時からは柿沼宣紀講師（北電函館営業所配電課）による第四区分の保安に関する法令の講義が行なわれ、最後に講習アンケートと講習修了チケットを提出、講習修了証の交付を受け、二日間にわたり講習を無事修了した。

基礎理論、配電理論等の講義が昼食をはさんでの三時間、引き続き午後一時から横川銀一郎講師（苫小牧協議理事）による第二区分の配線器具、材料・工具、施工等についての講義が三時間行なわれた。

部厚いテキストを手に一渴千里の講習で、講師も受講者もぐつたりと言つた具合だが免角一日目は無事終了、二名の運営者も大倉会場責任者の注意事項の間に入室出来事なきを得た。

基礎理論、配電理論等の講義が昼食をはさんでの三時間、引続き午後一時から横川銀一郎講師（苦小牧協組理事）による第一区分の配線器具、材料・工具、施工等についての講義が三時間行なわれた。



第一核電員工李士波抗議報告



中国に魅せられて

平沼硝子

お詫び 編集部の手違いにより、第七六・七七・七八号に掲載した分について順不同となりましたので、第七五号の続きをあらためて本号に掲載し、本号の続きを別刷として発刊本隨筆を完結することといたしますのでお詫び申しあげ、お許し願います。

朝食に「ナン」が出る。ウイグルの常食である。小麦粉を水だけでこねて焼いたもので味はついていない。しかし意外と美味でいくらでも入りそうである。待望の味だったので朝食は楽しかった。そのまま焼いたものばかりに白ゴマを振ったものもある。見た目はカチカチと固そうであるが食してみると中味はフカフカとやらかい。帰國してから知った事が五稜郭（場所ははつきりしない。行啓通りらしいが）にウイグルの料理を出す所があるそうである。

ベゼクリク千仏洞

ベゼクリクとはウイグル語で「美しく飾られた家」という意味。六世紀から十四世紀迄の間の壁画である。火炎山の北側の麓にある石窟である。壁画は今世紀のはじめドイツ人の「ル・コック」によつてはぎ取られ国外に持ち去られた時と、十四世紀にイスラム教が入り偶像否定で破壊された時と受難が二度あった。特にイスラム教は異教の偶像の眼に見られるたたりがあるとの迷信によって、すべての仏像の眼がえぐり取られている。同じ壁画でも敦煌の壁画は豪華で美しく當時

の文化の高さを伝えているが、ベゼクリクはやはり西域だけあってイスラムの仏教迫害をまともに受けたので損傷がはげしい。又画かれたものも何んとなく西域の匂がする。

第二十七窟

仏像は光背だけ残り顔はメチャメチャ。子供がいたずらをして土壁を鋭利な刃物で引っかいたようである。光背も色彩がうすれ敦煌の鮮やかさの比ではない。入口右側の壁画は宋時代のもので壁画に直接土を盛りつけたという。土を盛った理由はドイツの探險隊が一度に搬出できないので、次に来る時まで別の探險隊に持ち出されないためだったが遂に来なかつた。現在土を落とすと下にある壁画も一緒に剥落するので手がつけられないとの事である。干からびた黄土色の土が壁に無造作に塗られてあつた。

第二十窟

ウイグル王の壁画だったのだがル・コックがはぎ取り持ち去つたので、現在はドイツの博物館にある壁画を写した写真がそのあつた場所に飾られている。小さな写真のまわりの空白の壁が痛ましい。

第十七窟

ガランとした部屋である。かつては天国と地獄の物語りの画があつたと云う。ここもル・コックが手を入れ奥の小部屋にあつた経本を持ち出したとの事である。

第十五窟

西域を感じさせる窟。天井の唐草紋様が美しかつた。何の目的の窟なのか壁画はなかつた。塑像でも安置してあって持ち出されてしまったのだろうか。

第三十九窟

此處は駁迦涅槃図の壁画が入口正面に画かれている。特に駁迦の顔だけが狙いつかれて破壊されていた。

涅槃の駁迦の後側に画かれている各国の使節団？（駁迦の教を守る各民族）が並んでいるが、この人々は仏像ではないので顔は傷んでいない。資料を読むと大きな目はモンゴル人、鼻の高いのはイラン人、ターバンを巻いたのはビルマ人、衣冠正装は漢人である。ターバンと鼻の高い人、それに大きな目が私の印象に残る。

火炎山

ウイグル人は「グズロダゴ」（赤い山）と呼ぶ。標高八五一メートル、東西一〇〇キロメートル、一本の草も木もない赤肌の山である。火炎山はトルファンの代名詞のように言はれ炎熱の地とすぐ頭に浮ぶ。

太古の雨水の浸蝕で深い皺が出来、のち風蝕で尚更しづが深く厳しくなつた。トルファン盆地の北側を囲む位置にある。現在の年間雨量は一六ミリという事であるが太古はもっと雨量が多かつた。今日は四十四度、地表は八十度を越す事もあると言う。冬はマイナス二十八度を越すというから寒暖の差も山肌を荒す原因の一つではないのだろうかと思われる。

「孫吳空」で有名な「西遊記」の作者は「吳承恩」と言い、玄奘三蔵のあらわした「大唐西域記」を元本としたと言われている。「明」の時代に書かれた怪異小説である。いま、赤肌の火炎山の前に立つて見るとまだ陽が高くなないので山肌が熱せられず陽炎がのぼらない。残念だったが山肌が熱せられてメラメラと陽炎がのぼる迄待っている時間がない。又陽炎がのぼる頃には見物のこちらが先に人間の干物になつてしまふ。心を残してバスの人となつた。

い　な　づ　ま

西遊記の主人公孫悟空が「鐵扇公主」から「芭蕉扇」を借りて火炎を消そうとしたと書いてあるが、ジット赤肌の山を眺めているときもあるらんと作者の気持がわかるような気がする。この西遊記を書いた作者はこの火炎山迄来ていないと言う事であるが、作家とは大したもの、西域を遊ぶ人達の口コミの話を挿入して作品に組立てた。玄奘がこの火炎山を通過したのは冬であると大唐西域記に書かれているが、火炎山を眺めていると「火炎頭上飛ぶこと千丈の高さ」という表現が肯定出来る。

唐の詩人「岑参」は

経火山（火炎山を経る）

我れ嚴冬に來たりし時

山下炎風多し

人馬流汗を尽し

孰か知る造花の功

と詠んだ。この作者もここには冬も夏も来ていない。しかし、筆の冴えは火炎山を言いつくしている。

高昌故城

此處は廢墟の一語につきる。交河故城は城址としての趣は十分に汲み取られるが、この高昌故城は土塊が散乱しているだけだが

夏草や強者どもが夢のあと

芭蕉

のさみしきを感じさせる。高台から見ると日干レンガの土塊が一・五平方キロ四方に散乱しているだけにすぎない。和帝永元三年（九一年）に後漢が「戊己校尉」を置いて基地としたところで、城壁をめぐらし日干レンガを積んだ建物を作る。規模は交河故城より大きいという。しかし遺跡は交河故城の方がより多く残っている。

高昌故城の破損のひどい理由の一つは日干レンガの土の中に、柳の小枝や枯草などを混ぜて干割れを防いだ工程が原因らしい。日本でも上壁をこねる時「ツタ」と称して藁屑を入れる左官の工程がある。長い年月の

うちに農民達がこの小枝や枯草を肥料として廃墟の日干レンガを自分の島に使用した。自然の破壊のほかに人間が破壊をしたのだから崩壊のスピードが早かったという事なのだろう。

玄奘が印度に出発した折この高昌国に立ち寄り国王に請はれて、国王以下三百人余の人々に四十五日間仏教の講義をしたという。そして帰りにここを通過した時はすでにこの国は滅亡していたと大唐西域記に記されている。

アスター古墳

高昌故城に住んだ「韋」氏の王一族の墓で四百基あまりが広い砂地に点在する。アスターとはウイグル語で「憩」又は「眠り」と言う。

地表から地下一・五メートル、十五度の傾斜の墓道を地下に下る。長さ二十メートル位。

吾々が入ろうすると先に入っていた人達が地上に上つて来るところだった。その人達が地上に出ないと狭くて吾々が入る事が出来ない。室の入口に粗末な木の扉が取りつけてある。現在調査の為についたといふ。

昔は石の扉でもふさいであつたのだろう。入ってすぐミイラが一体並んでいた。唐代の人間だという。墓

室の高さ三メートル、三・六平方メートルの広さといふ。

二つ目の墓は屏

を入って更に十メートル位奥に墓室

がある。この墓室

に目指す壁画が正

面奥の壁に画かれ

てあり画は六つに



アスター古墳

六曲屏風の感じである。この壁画の一番左が目当の「^キ敏」である。底の尖ったかめが木架にやや斜めに吊してある。敏は中に半分程水を入れる。水が満杯になるとひっくり返ってしまう。勿論水はこぼれる。日常傍において「自高自大」「倨傲」（おごり高ぶること）をいましめる道具であり儒教のおしえであるといふ。右端は何を意味しているのかわからない。茶道具の茶筅らしいもの、笛のような細長いもの壺のようなものが画されており、ガイドのハバクリさんが古墳の入口に居て下に降りて来ないので何の質問も出来なかつた。

区切りの中央四つは人物で白い衣服の人は玉人といい清廉高潔な人格を表わす。金人は三緘と言つて三重に口を封じてゐる。白いマスクをかけてゐるのは口を緘じてゐる表現である。多言をいましめたもの。石人は石の如く寡黙だが市中に混つても動じない事を表わす。本人は愚直なほど正直な人格の持主である事を表わしてゐる。すべて儒教の教えを絵にかいして表わしたものと言われている。「敏」一つだけでも「中庸は人の道なり」を表現して古代中国の思想をあますところなく伝えている。

もう一つの古墳の壁画は花鳥でさしづめ花鳥図の六曲屏風で遺体を飾る、そんな感じである。あつた。

入口から墓室に至る途中の壁面に巾五〇センチ位高さも四一五〇センチ位の小さな入口がある。中の広さ一・五平方メートル位あるとの事、「耳室」と言って副葬品を納めるところという。故人の日常使用した遺

愛のもの、或いは傭(ヨラ)土で作った人形)や絹絵を入れたという。小さな室というよりは閉まれた棚と言う感じである。

アスター古墳は発掘すればまだまだ新しい発見があるだろうと言っていた。

三時半、ウルムチに向けて出発。ハバクリさんが降りて運転手も若い青年と交替する。途中トイレタームで小休憩したところに足の小さいお婆さんが居た。

「纏足」ではないかヒソヒソときわいだが現在「纏足」の人は居ない筈だ。もし居たとしても百才をとうに越した年齢だと思う。清の康熙帝(清朝第四代の皇帝)の時に禁止令を出したという。立派な歴史的事実があり完全になくなつたのは明治中期以後らしいから、のお婆さんは足が悪くてヨタヨタしていたのだろう。

康熙帝は一六六二—一七二二年の人である。

一九八キロをひた走りに走って午後七時二〇分、ウルムチに到着「新疆友誼賓館」に入る。

夕食八時半、トルファンと違って本来の中国料理、地域的な食物は出ない。ホテルの名は「新疆」とついているから期待したのだが……。

トルファンで飲んだワインが美味だったので寝台車の四人が拠金して各テーブルにワインを一本宛出す。あとで精算してもらつたら各人四元、日本円にして百七十六円になる。お札にしては甚だ安いものになつた。

食堂が別棟なので部屋に帰るついでに売店をのぞく。カシミヤのセーターを見付ける。全く純粹の毛百パーセント、値段は日本で買う値の四分の一、ただし色の種類が少なくデザインも二種類しかない。

中国のカシミヤは世界の生産高の五五パーセントを占める。三ヶ月の子羊の毛を紡いで織るので非常にやわらかくソフトである。ウルムチに日本人との合弁会社があるとの事である。

こここのホテルのレースのカーテンの柄は竹にパンダ、ぶどうの房とつるに葉、中國らしく織り出してある。

室内の仕切りも切りぬきになつていて飾り兼用である。行く時の部屋は竹、帰りもこのホテルだったが、部屋は水仙の切りぬきだった。隣の部屋をのぞいたら蘭で各室皆違うデザインだった。

(以下別刷に続く)

平成元年度 主任電気工事士研修会

主催 北海道電気工業組合

函館地方電気工事協同組合

後援 札幌通商産業局

北海道道道

北海道電力株式会社

財北海道電気保安協会

議題および講師

一、昭和六二年度自家用電気工作物の立入検査結果

二、昭和六二年度電気事故の概要について

三、改正電気工事二法に伴う諸手続について

渡島支庁経済部商工労働課

上野主事

四、高圧受電設備工事の留意点について

北海道電力㈱函館営業所配電課

大西主任

五、自家用電気工作物の電気事故と防止対策

財北海道電気保安協会函館支部 浜村支部長代理

第七回目の主任電気工事士研修会が、三月二十四日

ホテル函館アカシヤを会場として開催、過去最高の百五十四名が受講した。

今回は、改正電気工事二法の施工と第一種電気工事士のたん生にあわせ、主として自家用電気工作物を対象にした諸手続、電気保安行政の動向、工事の留意点、事故対策についての説明がなされた。

澤田勝治氏は、去る一月十五日転移性肝臓癌のため入院先の函館中央病院で五十一年の生涯を終えられました。

澤田氏は、昭和十三年七月二十一日八雲町字山崎で生まれ、中学校を卒業すると直ぐに八雲町の伊藤電機商会に入社しましたが、昭和三十年に函館に転居三十二年四月に北日本電建(株)に入社、電気工事に従事する傍ら夜は道立函館中部高等学校で勉学に励み昭和三十四年に同校を卒業したのであります。

翌三十五年六月期するところがあつて陸上自衛隊通信隊に入隊し、四十二年六月に満期除隊するまで主として電気関係の業務に携わり、除隊後四年間程平井電気㈱、樺電工業㈱に勤務した後四十六年二月電気工事業者として登録組合に加入しました。

奥様、実弟と力をあわせ着実にその礎を築き、昭和五十六年四月には有沢田電工舎として組織を強化しました。

氏の情熱と努力は私共業界の発展に大いに寄与されましたことは私達関係者一同感嘆敬愛するところであります。

氏の突然の訃報に接し組合関係者一同はあまりのこ

とにただ驚きと哀惜の念に堪えないばかりであります

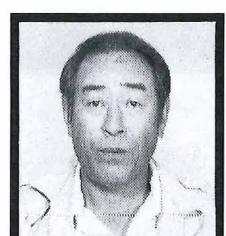
が氏の残された業績は不滅の道のとなり私達を激励し業界の一層の発展となることを信ずるものであります。

澤田さん、どうか安らかにお眠り下さい。

故人の生前の功績を偲び、謹んでご冥福をお祈り

して追悼の記といたします。

合掌



(有)沢田電工舎代表取締役

澤田勝治氏は、去る一月十五日転移性肝臓癌のため入院先の函館中央病院で五十一年の生涯を終えられました。

澤田氏は、昭和十三年七月二十一日八雲町字山崎で生まれ、中学校を卒業すると直ぐに八雲町の伊藤電機商会に入社しましたが、昭和三十年に函館に転居三十二年四月に北日本電建(株)に入社、電気工事に従事する傍ら夜は道立函館中部高等学校で勉学に励み昭和三十四年に同校を卒業したのであります。

翌三十五年六月期するところがあつて陸上自衛隊通信隊に入隊し、四十二年六月に満期除隊するまで主として電気関係の業務に携わり、除隊後四年間程平井電気㈱、樺電工業㈱に勤務した後四十六年二月電気工事業者として登録組合に加入しました。

奥様、実弟と力をあわせ着実にその礎を築き、昭和五十六年四月には有沢田電工舎として組織を強化しました。

氏の情熱と努力は私共業界の発展に大いに寄与されましたことは私達関係者一同感嘆敬愛するところであります。

氏の突然の訃報に接し組合関係者一同はあまりのこ

とにただ驚きと哀惜の念に堪えないばかりであります

が氏の残された業績は不滅の道のとなり私達を激励し業界の一層の発展となることを信ずるものであります。

澤田さん、どうか安らかにお眠り下さい。

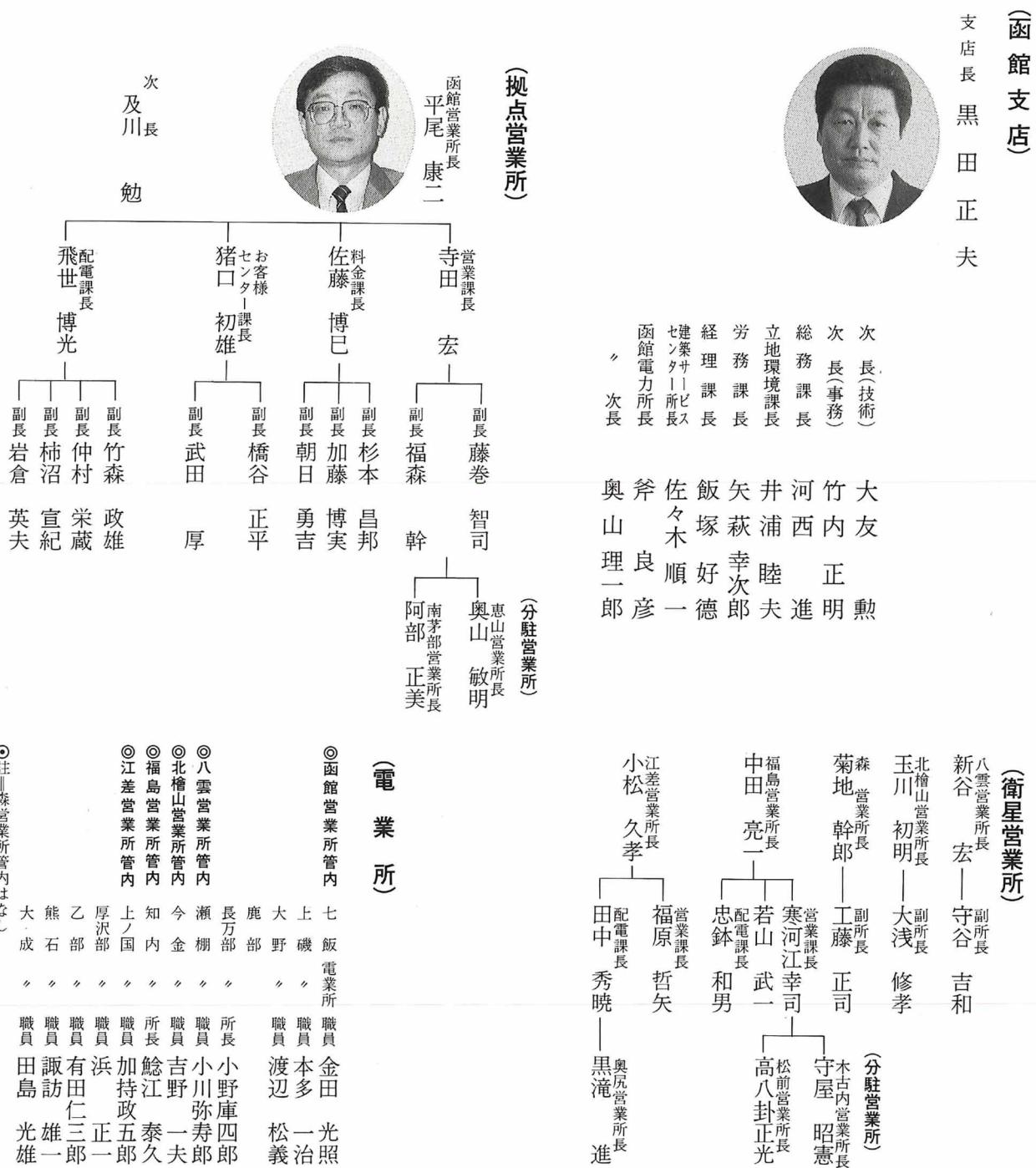
故人の生前の功績を偲び、謹んでご冥福をお祈り

して追悼の記といたします。

合掌

追悼記

北海道電力(株)函館支店管内組合関連組織図 (1.5.31)



あかるい明日を技術でひらく

東芝電材株式会社

040
函館市大繩町一十一番十四号
電話 四一一三四一
函館

吟味する

松下电工株式会社

冰館出張所

函館市西桔梗町五八九番地一〇七
電話 四九一—一五二五

工事材料・電化製品

丸晃電氣株式會社

電函館市西桔梗町五八九一四九四九一三二一三

電気設備機器資材の綜合卸商社
大興電機

本社 営業所 函館市西桔梗町五八九、一〇七
電話(代)四九一六二二一七
山越郡八雲町内浦町一〇七
電話(035)三一三三六九番

北進商事株式会社

日松
立下
電線工
株(株)
特代理店

株式会社 工三ヤ商会

040

明日をひらく電設資材の総合卸商社

函館市富岡町一丁目四一一七
電話四三一三〇一（代表）
本社 札幌・営業所 鉄路、苦小牧

電気工事機器
音響通信機器
総合商社

石垣電材株式会社
函館當業所

本支店社
函館營業所
040 063 060
函館市中央区北六条四一三丁目九番地
○一市一新中野二番地
○一島三丁目九番地
五町五丁目九番地
一四番四番地
二二二二
番代號

電設資材・機電綜合卸